2023年度前期STARTプログラム（リトアニア）事後レポート

所属学部・学科・学年	総合科学部国際共創学科２年

(１)STARTプログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか
初めての海外だったので、経験することすべてが新鮮だった。リトアニアは特に有名な観光名所があったり歴史的に強国だったりするわけではないが、ゆったりとした時間の流れ方や食事の違いを、身をもって感じることが出来た。私はIGSに所属しているので、英語で授業を受けることには慣れていたが、ボランティアの学生と遊んだりレストランで食事を注文したり、さらにはツアーガイドの方々の話を何時間も聞き続けたりしたことで、自分の英語力の低さを改めて思い知らされた。特に海外で活躍したいなどという思いはないが、安全に旅行できるぐらいのスキルは身に着けようと思った。また、個人的にはほとんど初対面のグループで、2週間近く共に行動することの難しさを知った。外国人だから話が合わない、日本人だから価値観が合うといった固定観念にとらわれず、人と関わるべきだと気づくいい機会だった。 今回プログラムに参加して、自分が思っていたより外国は隔たれた場所ではないと感じた。言葉や文化の違いを必要以上に恐れていたが、今後は積極的に日本の外にも目を向けていこうと思う。
(２) プログラム内容についての全体的な感想
大学で授業を受け学生との交流もあり、美術館や博物館などの訪問も組み込まれ、自由時間も十分にあり、10日間でリトアニアを大いに満喫することが出来た。長時間のフライトや早朝からの散策など体力的に厳しい部分もあったが、大きな問題なく過ごすことが出来た。学びや楽しい思い出はもちろんあるが、それ以上に団体行動をするうえで最低限のマナーを全員が守るべきだと思う。全体の雰囲気が緩かったことは観光を楽しむにはありがたかったが、あまりにもメリハリがないように感じた。大学生にもなって恥ずかしいが、門限や消灯時間を決めたり報連相をこまめに行ったりしないと10人以上もの団体で同時に行動することは難しいと思う。帰りたくても海外の夜道を1人で歩くことには不安があるし、現地の学生がいると英語で上手く伝えられない場合もある。楽しく旅行したいだけなら気の許せる友達とすればいいと思う。学校のプログラムである以上はもう少し拘束があってもいいのではないかと感じた。全体を通して、街の散策や施設の訪問、学生との交流など十分に時間が確保されており、満足できた。無理に滞在を長くする必要はないが、折角なので他のＥＵ加盟国にも行ければよりよかった。10日間で驚異的に英語力を向上させることは不可能だと思うが、異文化を知る良い経験であった。

(３)今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス
主に日本人の同行者と行動するので、英語が話せないことを過剰に心配する必要はない。英語力の向上を目的とせず、新しい友達と観光を楽しむ程度の気持ちでないと物足りなく感じるかもしれない。食事やトイレなど日々小さなストレスが溜まるので、体力的にも精神的にも十分な休息をとり、余裕をもって行動するべきだと思う。

2023年度前期STARTプログラム（リトアニア）事後レポート

所属学部・学科・学年	総合科学部・総合科学科・1年

(1)STARTプログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか
第一言語が異なる人々とコミュニケーションをとる力・同じアクティビティを体験する中で距離を縮めやすくする方法を学んだ。例えば、自分の英語力で完璧に思いを伝える自信がなくても最初に思い切って話しかけてみると相手も理解しようとする努力をしてくれる。VMUでの講義でも学んだように、母国語話者でない場合に会話の責任の比重は軽くなる。何でも自分のスキルのみで解決しようとせずにコミュニケーションのきっかけを救っていくことが重要であると実感した。またスポーツをして汗を流したり、同じ空間で食事を楽しんだり、美術館で作品を鑑賞したりするなど現地の学生さんたちと多くの活動を共にした。その中で身体的な距離が縮まる瞬間ができたり、感想を共有したりできた。これが心の距離も縮まる要因となっていたと感じる。この経験は、話す言語が異なる人のほかにも様々なコミュニティにおいて人間関係を構築するために役立つはずだ。これから出会う海外の人たち、異なる文化を愛する人たち、違うが学問を学ぶ人たちなどとかかわり、信頼関係を築いていく際に活かしていきたい。
(2) プログラム内容についての全体的な感想
プログラムに関して、来年以降も継続していくと後輩たちの良い経験につながるだろうというポイントが2点あった。1つ目は10日間という短いスケジュールだったが、拠点を変えてカウナスとヴィルヌスの二大都市を巡れるように計画してくださっていたこと。カウナスはOld townのようなリトアニアの古風な雰囲気を楽しむことができ、前者に比べてヴィルヌスではより発展した街並みを見ることができた。2つ目は午前中の講義のあと自由時間がたくさん確保されていたことだ。毎日の夜ご飯、時にはランチも自分たちで何を食べるか決められるため現地の学生にお勧めのレストランを案内してもらったり、見つけたお店に自分の英語力だけで挑む経験ができたりした。私の中で印象的だったのはVMUの学生たちがヴィルヌスまで来てくれて一緒にバスケをプレーしたことだが、そこまで学生同士の中が深まったのも、自由なアクティビティができたのも序盤から自由時間を確保してくださっていたおかげだと振り返ってみて感じた。

(３)今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス
実際に START プログラムのメインとして海外に渡航するまでは、同じプログラムのメンバーと顔を合わせる機会は非常に少ないうえ、現地の学生も言葉がうまく通じるかわからないため、楽しめるのか不安に感じるかもしれません。しかしその心配はありません。広大の学生とはプログラム中に学部や学年の垣根を越えて濃い 2 週間を過ごせます。現地の学生は一緒にいられる期間が短い分、完ぺきに英語が通じ合わなくても一生懸命コミュニケーションをとろうとしてくれます。現地でお料理や観光スポットをおすすめしてもらったり、講義を一緒に受けたりする中で自然と距離が縮まります。英語力やコミュニケーションに自信がなくてもとりあえず飛び込んでみれば、日本に帰ってくるときには泣いてしまうくらいに参加してよかったと感じられるはずです。 現地の学生と仲良くなったり、その国の文化を学んだりする際にお勧めしたい方法があります。それは現地で人気のあるスポーツを実際に体感することです。私はバスケットボールで有名なリトアニアに行きました。街にあるコートで学生や教授とバスケをしたり、アリーナでプロのゲームを観戦したりしました。それには道具や服装、チケットの手配が必要になるため渡航前やプログラムの序盤に計画を立てておくと全力で楽しめると思います！